

まほろば

2018-9月号

自然農園だよ！



宮下 周平

Shuhei Miyashita

余市川の大古木を農園入り口に設えて。甲田夫妻を囲んでみんなで記念撮影。



Mother Tree 「母木」の栗の木

収穫の秋を予感

庭の丹波栗、今年は穂を沢山付けたせいか、小さい実が一杯なっています。この70年の大樹、まほろば農園の「MOTHER TREE」ですね。地下茎がどんなに張っているのでしょうか。道路を挟んだ栗の新木の根に親根が届いているでしょうか。畑では、マルチの外に根付く雑草の生命力の逞しさにはビックリ！！します。



マルチの横はこんなにも雑草の根が張っています



アスパラの苗を移植した時の根の長さが左。他にも、もっともっとあります。作物の根張りと絡みは、息を呑みます。人も世も、如何に根を這わせるかですね。

来園者

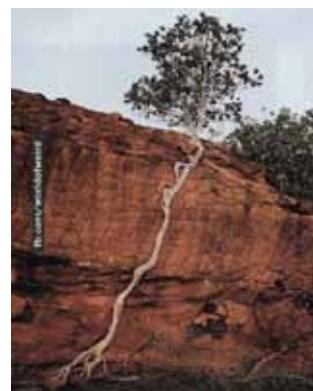
1、山形の板垣弘志さん父子

昨年も来られた山形のお米農家の板垣さん。今年は、お嬢様の志摩さんとご一緒に来園。何でも札幌の「すし善」さんにお米を出されていて、店舗拡張のお祝いに、駆けつけたとか。相変わらず派手な^{みなり}身形。いつまでも若く、お元気なんですね。お嬢さんは、タカコナカムラさんのホールフードスクールで家内の講演を聞かれたことがあるとか。

来年は、本場の在来種「ダダ茶豆」の種を戴けることになりました。来年には、仁木の畠で継承されます。



アスパラの根。3倍はある。



2、ライヤーの池末みゆき先生も

今や、国内でライヤー(豎琴)と言えば、池末先生を知らない人がいません。今年も、緒方紀子さんと一緒に来園。ズッキーニを採取されるなど一時を楽しんで頂きました。山野井さんの大果樹園をご案内してサクランボを満喫。次の朝、小樽の小林恵里子さんが主催される「健康応援社」での朝食会とミニコンサート。三枝龍生先生の治療実技も加わり、爽やかな学びの朝を過ごしました。



初成りのズッキーニを手にして



治療の天才、三枝師匠



軟石の倉庫がコンサート会場

3、慰安会 in 仁木農場

先月号にも知らせたまほろば従業員の慰安会。その場での、人事発表と各人に贈る言葉を。ここで、お客様にも報告を兼ねてお知らせいたします、一興にお読みください。

ソフテリアの龜谷理恵さんが一身上の都合で退職されました。大好きなパン作りを一生続けて欲しいので「発酵浄土」の書を。またご縁があつたら帰って来てくださいね。

以前から、小笠原諸島にわたる計画準備を進めていた覚前美幸さん。

とうとうその日がやってきました。「覚明前今」(今、眼前のこと、目覚め明らかにする)の言葉を。また、まほろばが恋しくなったら帰つて来てくださいね。みんなで待っています。

そして、社員で市場仕入れ担当の大庭奈緒子さん。海産物に詳しく「魚々の褻り(どのつまり)」も大好評。9月をもって退社し、故郷の福岡、朝倉市の実家に帰り



大型バスに添乗するまほろば従業員



久しぶりの農作業に腕を振るう福田君と宮本君



本店レジスタッフだった覚前さんは求道者。



それぞれに送った色紙

ます。自立したいとの本人の希望に沿って、止むなく承諾しました。なかなか、0-1 テストが出来て、仕入れまで出来る人材はいないのです。「水魚一心」。人における空気のように、魚は水の存在を認識出来ないほどに一体です。まほろばともそのようにあって、向こうに帰るも常に一心であることを望みます。お知らせを時々書いてくれるそうです。



本店大庭さんの門出を祝福



チョット辛い話ばかりで、ここで嬉しいニュース。厚別店の穂積店長に、結婚と誕生の二重のお祝い事。美人の奥様悠理さんとの間に「虎之佑」君が。タイガーズファンの彼、ここまで来たら、誰も文句は言えません。「万歳 虎之佑！！」と「夫隨婦唱」の格言（？）を贈りました。奥様の言うことを聞いていれば、何せ家庭は円満！ということありますナ。本人曰く、「お祝いは、今でも受け付けています」という浪速つ子の図々しさも御許しのほどを。

4、甲田夫妻来店、来園



来年も全道各地で講演会を！

8月5日の売り出し感謝ディー最終日に、本店での講演会。

33歳の甲田貴也さんは、大阪泉南で造園業を営む4代目。奥様の和恵さんは、千葉で大地再生に取り組む高田宏臣造園を独立して同じく造園の道を進んで、縁あって御一緒に。そのお二人による講演会。

7時より、貴也さんによる、1年7か月かけて53か国を巡った旅行記を熱く語られました。そこには、人並み外れ



まほろばのお絵描きイベントで画かれた家族のイラスト画

どです。

和恵さんは、自然のメカニズムと再生への取り組みを、実践を通じて具体的に話されました。若い女性でありながら、深い宇宙観や強い希求心には感心させられました。

次の日は、仁木農園を訪問されて2日に亘って援農を。夜には新倉庫で夜中12時まで、昨晩のミニ講演会を。まほろばのお客様で、お母さんと一緒にボランティアしてくれていた高校一年生の西村萌ちゃんには、凄い刺激になったと思います。全体観と大局観を身に付けるには、青春時代に世界を旅して見聞を広めることは重要なと思います。





川べりからトラクターで引き上げられる古木



天然御芸術品の材木を前に、新婚さん、ハイ、パチリ。

作庭家のお二人にとっても、格好の素材の大きな枯木が、先日の大雨による増水で、余市川の川べりに転がって在り、それを皆で引き揚げ、農場の入り口に設置。みなで貴重な経験をしました。さすが、体の使い方、物の扱い方、指示の違いがよく分かりました。

鍛えられたキレのいい動き方をするお二人を見て、感心すること頻り。いろいろな農作業をして頂きました。なんと手際の良いこと！！本当に有難うございました。

5日、神農像を設置

まほろば創業30周年に、富山県南砺市「さくさく村」「株国際有機公社」の吉田剛社長から記念に戴いた別注の彫り物「神農像」。これを新しい納屋に設置しました。神農は中国の神様ですが、日本でも医薬の神様として親しく、「富士古文書」によると、日本人の祖先でもあるそうです。そして、何よりも「農業の始祖」

であるので、ここに置かせてもらいました。

まほろば本店でも、福田君自作の見事な神農像が飾られています。昔は農業と医薬は一体ですね。吉田社長、ありがとうございました。



神農像を高棚に設置する甲田さん



誰かに似せて太めの神農像に彫ってくれたそうです。

6、工芸の匠・ 今村さん

まほろば本店の大きな看板や表札などを彫つて下さる名人、今村亨さんとあるが、ひよっこり雨の中をボランティアに来園。蘭越町の米農家さんの出身ということもあって、雨の中を小気味良く草取りする手際の良さは、流石農家の息子さすがといった見事さ！

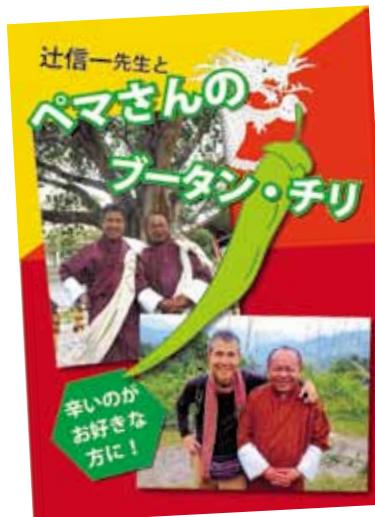
それで、彼の彫った小別沢の看板『まほろば自然農場』が、ながなか取り付けられないでいた所にタイミングよく今村さんの登場で、壁に貼り付けること完成、一挙に解決。何事も、時が解決するのでしょうか。人や物事には、待ちの時間が要るようですね。ありがたかった。



木彫の名匠、今村さんは、寡黙で徳の人。

7、「ナマケモノ俱楽部」 の 馬場さんが東京より

東京の「ナマケモノ俱楽部」の馬場さんが来店、そして島田編集長の運転で来園。次の日は長沼「メノ・ヴィレッジ」取材。師・辻信一先生のフィール



「プリッキーヌ」。これも、農園で再現しました。なかなか実が付かないの出荷はもう少し後になります。



スウエさんのプリッキーヌの前で、馬場直子さん



今年はブータンのえごまも栽培

ドワーク探訪の一環です。一昨年、辻先生から頂いた『ブータンチリ』の種を更新。名付けて「幸福唐辛子」(しあわせのトウガラシ)。「国民総生産GDPではなく『国民の繁栄と幸福』であるGNHの象徴として命名。両国友好の標しるしとしたいものです。今年は、東ブータン・チモン村のペマ・ギヤルボさん農園のチリ種を辻先生から戴き、それを苗にして育てました。名付けて『ペマ・チリ』、また同じ土地の『えごま』の種も、農園で開花し、出荷中です。

今年2月訪れたタイ・チェンマイの山奥、カレン族のスウエさんの家庭菜園で戴いた小さい激辛唐辛子「プリッキーヌ」。これも、農園で再現しました。なかなか実が付かないの出荷はもう少し後になります。



「余市エコビレッジ」前にて



ワイン用ぶどう園。ハーフサイズで 330 本出荷との事、無農薬で頑張っています。

その後、同じ ECO 仲間である余市モンガクの「エコ・ビレッジ」の坂本純科さんのところへ取材。エコツーリズムなど様々な取り組みを行っている農園は、多くの方々がサポートし、援農して未来ある若人を育成しています。素晴らしいですね。エコトイレやエコハウスも見せて戴きました。

8、庭石設置

友人で、海産市場の仲買^{いり}入福の専務、加藤信也さん。昔、札幌の家が並んでいて隣同士でした。向かいが造園家の竹内さんで、お互いに庭好き。

加藤さんは、魚屋さんと造園家の二つの顔を持つ。あのまほろば本店の庭や地下洞の造作の際、竹内さんに施行して貰ったが、材料は加藤



「鮭の匠」加藤さん



2回4トントラックの往復。

さんが手配したものだ。あの見事な蹲や木化石など、加藤さんが蒐集^{しゅう}したので、未だ石狩に石を残していた。

それを、この度処分することになり、半ば押し付け的に(笑)、仁木農園に移動するという想定外の出来事になったのだ。つまり、早い話、有難くも無料で貰い受けたのだった。

相当前に、あの小樽「池田バンビ」でお馴染みの老舗池田製菓の会長宅の壮大な庭を解体することとなり、それを担つたのが加藤さんだった。

この 20 倍は石があったというから、その様は想像を絶する大名庭だったはずで、取り壊されたのは惜しい。札幌より、小樽が政経文化の中心だったころの名残だったのだろう。本店の社長室の壁の屋久杉が何と雨戸で、机のケヤキが台所の下張りだったというから、当時の贅沢な趣味とどれだけ財が豊かだったのかと、小樽



道内の銘石の数々を集められたとの事です

の繁栄ぶりを伺わせる。そんな雰囲気の中、あの石原裕次郎や慎太郎兄弟が育った訳だ。^{きたいち}北一辺りの鯨場の賑わいぶりが今に偲ばれる。^{ながれ}流さん作だろうか、滝水を受けていた巨大な蹲が、庭から切り離されても鑑賞に堪えるオブジェともなっている。

丁度、糀殻の山があつて、フレルモアでその周りを回旋したら何か、禅寺の石庭のようになつたのには、笑ってしまう。農園の入り口に、石庭が出来てしまった。

それにしても、朋友加藤さんには、感謝しても感謝に堪えない。



天からの戴き物。農園の名物が出来ました。

1、西瓜・瓜、大騒動 「赤黄(アッキ)ちゃん」

長雨、台風と続く異常気象の今年。初めて西瓜用に3ベッド作りました。一時は庫内が70度にまで上昇したが、それでも0-1テストで水を遣らずに生き延びたという驚異の苗でスタートした。

ところが、露地の運命か、トンネルを外してから雨にたたられた。雨による割れや腐りが続出して、泣くも雨だった。だが、そこにまほろば液肥を投入して何とか生き残れたのだった。

それが液肥タンクに発生した粘菌だった。

醤油粕や米糠、魚粕に発生した知性の生き物「粘菌」。動物的性質と植物的性質を併せ持つ原生動物の一種で变形菌。粘質性のアメーバや胞子な

どへ、さまざまに変形しながら増殖する。移動先の定着した地で、その細菌を増やし、さらに他の種類の菌を殺す作用、農薬の働きまでする農業細菌とも呼ばれている。

さて、その見事にも繁殖した粘菌パワーがどのように作用したか、粘菌のみぞ知る所です。

そして、収穫時期到来。採って割ってみると、



タンクに生じた元気な粘菌

長いマダーボールも丸い黄玉も混交。一方、赤もあれば、黄色もある。割らねば分からぬ三種。皆混雑してしまっている。

さあー、困った。どうも、クリームの方が優性らしい、ほとんどがクリームと赤黄の混色になってしまいました。そこで、妙案。『アッキ(赤黄)ちゃん』と名前を付けた。どちらとも取れるカワイイ名前で、ご容赦のほどを。



新種「アッキちゃん」!! 笑ってください。

2、瓜騷動

そして、次が瓜騷動。形と味わいが、4種類に大別された。

『瓜メロ』、メロンの形をした瓜で、意外にもメロンより上品で食べやすい。『丸うり』小さいボールのようで、中々これも美味しい。次は『味瓜』型。大玉だが、甘露の味わい。

『白瓜』も作りました。正に瓜で、奈良漬用、漬物用に。縦列に、甘露と白瓜を植えたので、交ざつたようです。白瓜が少し甘かったりするものもあるのです。

収穫と選別が大変で、売り手も買い手も大変で、大変申し訳ありませんでした。もし、不味いもの



イエロームーン。皮の表面が赤肉の西瓜。宇宙のような文様。結構おいしく、外に内に二重のお楽しみ。

がありましたら、お申し出くださいませ。返金かお取替えいたします。時々、苦みのものがあるようです。

味ウリの種はまほろばで販売している『ともりん』から採ったもので、完全に先祖帰りしたようです。ネットで調べてみると、『ともりん』は小林さんが青肉メロンと甘露メロンを交配したものだとか、どうりでメロン味の『瓜メロ』ができるわけです。



右上から、甘露、メロ瓜、白瓜、丸瓜。
今年の失敗を、来年のバネに。



大失敗ではあります、これが意外と美味しい、お客様には、多様性豊かな自然農園の醍醐味を味わって戴くべく、販売することにしました。ご感想をお寄せください。

3、初の仁木玉葱「ニッキー」

マルチ一列 50mだけ、玉葱を植えました。在来種「札幌黄」です。北海道新聞の森川論説委員が自家採種した種を戴いて育てたものです。

小別沢の我満さんも同じ種で栽培して、兄弟同士です。実に玉ねぎは、種から実まで、2年かかります。

これも、雨に叩かれて軸が腐るなど大変でしたが、今風乾している所です。全体に小玉傾向ですが、大玉も穫れて、来年への意欲が出てきました。多種品目なので、手間がかけられない分、マルチ栽培は本当に助かります。

そこで、これを記念して名前を付けました。「札幌黄」ならぬ「仁木黄」^{にきき}なので、呼びやすく「ニッキー」にしました。これから愛称で呼んでくださいね。油と塩だけで炒めたものを食べましたが、凄く甘く美味しいですよ。



4、「トマティーヨ」サルサソースに

昨年から始めたトマティーヨ。メキシコ原産の食用ホウズキ。日本のそれのように小粒でそれ自体美味しい訳ではありません。でも、多産系で1本の木から次々と花を咲かせ実を成らせます。

人々、暑い地域の作物なのに、この北国で、よくもまあこんなにも逞しくも育つものかと感心します。きっと将来的には、日本に定着するでしょう。

イタリア産のローザビアンカも良く成りますし、以前栽培した沖縄育ちの「雲南百葉」などは、ほかの作物が枯れても最後まで茂っていました。ビックリです。

茄子でも胡瓜でもトマトでも、日本在来の作物ではありませんので、そうやって長い時間をかけて定着して来たのでしょうね。

サルサソースが一番です。サラダやエスニック料理のスパイスに、ピッタリで作り置きしたらいいですよ。



日本にも愛される固定種になる日を。

5、枝豆収穫始まる

今年は、「青雲」「天乙女」「雪音」「だだちや」など、4種類の大豆を植えました。

ところが、ちょうど花が咲く時期に長雨にあたって落ち、実の付きが悪く、大幅に収量減になりました。多くは供給できないと思いますが、今しばらくの枝豆をお楽しみ下さい。



総じて小粒傾向で、選別に時間がかかります。

6、ホーリーバジル

もう10年以上前の事、福島の会津地方で、日本ホーリーバジル協会を立ち上げ、普及に生涯を捧げた大矢泰司さんがおられ、そこから見本をもらっていました。



香が爽やかで深い。

などのストレスへの抵抗能力を高める働きのある天然のハーブのこと）であり、

ホーリーバジル
(holy basil)
は英語名、サンスクリット語ではトゥルシー(tulsi)とも呼ばれ、異なった体内プロセス間のバランスをとるアダプトゲン（トラウマ、不安、肉体的疲労



トラクターで土を耕し始めると、いつの間にか後ろから十何羽エサを探してついて来ます。

ストレスへの順応を助け、一種の「不老不死の薬」と見なされています。

ところが、数年前、会津探訪で案内して頂いた大橋しのぶさんが、その協会の同会員で千葉の寺田本家の奥様も栽培されているとかでビックリ。縁は近きに在りで、その協会の花壇に案内されました。

ホーリーの名が示すように、このバジルには聖なる靈気が隠されていて、人々を幸福へと導くいわがあるそうです。今年ささやかにも植えてみました。

鮮烈な香りに、異次元な空間が生まれるようですね。少しづつ出荷しています。そろそろ終了です。

7、秋野菜撒く

大根、白菜、蕪、チングン菜、春菊、などの秋野菜の種蒔きを、雨の合間を縫ってしまいました。さて、成りはどうでしょうか。

春の畑の耕起には飛来しなかった海猫やカモメが20羽ほど群れを成してミミズなどの小動物を食べに舞い降りるのであります。近くに余市港があり、どうやって嗅ぎ付けて来るのか、不思議ですね。千里眼で見えるのでしょうか。

動物の超能力にはたまげますが、又とてもかわいいものです。何時も、一切無関心を装って動作を荒げないので、向こうも安心して近寄っ

て来ます。それが、また可愛いのです。

漬物大根の時期には、店長や福田君が抜きに来てくれるというので、多めに播種しました。さて、どうなることやら、これからの天候を気にしながら、成長を見守る毎日です。



仁木編（第二部）

宮下洋子

さんざんな胡瓜

花の咲きようは、異常なくらいです。生存の危機を感じての事でしょうか。しかし、長雨と日照不足で、遂にはヤニの出る黒星病にやられてしまい、次第に収穫も減速、全滅状態でした。本店店長から出荷ストップがかかりました。収穫作業に追われてしばらく、伸びすぎのツルや繁り過ぎた葉の剪定を怠っていたので、風通しが悪くなり、そこに、毎日ジメジメと乾燥するヒマもないようなお天気がつづいたのです。

追肥の遅れ

その前には、チツソ（ブラドミン）の追肥も遅れて、やっと追肥出来た時には、夏の乾燥続きて、雨が降ってくれなければ、通路に上から撒いているだけなので、肥料も効きません（通路灌水の設備をしていなかったの

で）。やっと雨が降って肥料が効いてくれると思っていたら、これが長雨で、上記のように黒星病の出現となってしまったのです。

菌の病気はチツソ不足も要因

私の考えだと、黒星病や、ウドンコ病は、菌の病気なので、両方とも窒素不足で起こります。ウドンコ病は、夏の乾燥が続いた後に起きる病気で、黒星病は、低温と湿気、日照不足で発症するようです。今年の夏は、低温と日照不足の方が大きかったので、ウドンコ病よりも黒星病の方が先に発症したようです。

しかし、両方とも、夏の乾燥が始まる前に、窒素肥料を効かせておけば、無農薬でもかなり防げる病気です。

今や罹患していないきゅうりが1本もない状



バッサリと葉と実を落した胡瓜、サッパリ！

態なので、もはや仮に農薬をかけたとしても蘇生させることは難しい状態でした。でも、あきらめるわけにはいきません。

低温と日照不足は認めるとしても、窒素の追肥が遅れ、通路灌水が出来なかつたせいも大きいと思っているのは私だけで、私以外の誰も信じてくれないからです。

病気の原因は菌ではなく、菌は結果

追肥がそろそろ効いてくるころなので、思い切った切り戻し剪定で、風通しをよくし、木の若返りを図れば、立ち直れる可能性はわずかでもあるはずです。

私はそれをみんなに目に見える形で証明したかったので、毎日半日くらい木の剪定に費やし、出荷の無い日は、一日中剪定をしていました。本当は忙しくて、そんな事をしているヒマなどなかったのですが、私にとっては最優先課題でした。

生命現象の根本義は『場づくり』

病気の原因是、菌ではないという事を証明したかったからです。それは生命現象の根本義に属することで、病気の原因が、害虫や菌やウイルスが原因だと考える所から、殺虫剤や殺菌剤



収穫後の選別も時間との戦いです



が必要となる慣行農法の考え方が生まれてくるわけで、無農薬で自然農法や有機農法を目指すものは、この考え方を捨てなければいけないからです。

人もまた同じで、同じようにインフルエンザやロードリックが流行っても、罹患する人としない人があるのは、人それぞれ免疫力が違うからです。それには、食を始めとする生活習慣や、生まれながらの体質（自家採種はその為です）などが大きく関わってくると思います。免疫力の向上にはたんぱく質（チツン肥料）の摂取が大きいことは、よく知られるようになりました。

農薬は（自然農薬も含めて）対症療法

肥料のバランスや水はけ、風通し、日照時間、等々、その作物の成長や季節に合わせた『場づくり』がしっかりと出来ていれば、病気や害虫に侵されることもないはずで、菌や害虫は、原因ではなく、『場づくり』が出来なかつた結果なのです。

『場づくり』が根本治療で、農薬は（自然農薬も含めて）対症療法なのです。

気象条件は、人為ではコントロール出来ないけれど、お天気に合わせた『場づくり』を心掛けることで、被害を最小限に抑えることが出来るのではないかと思っています。

それも出来ないような異常気象なら、天意にお任せするしかありません。

でも、農業にとって、とても大切なことを証明したいのですから、きっと、天の神様は奇蹟をもたらしてくれると信じています。

人事を尽くして、天命を待つ

思い切った切り戻し剪定で、見る影もなく丸坊主になったところに台風一過、雨の追い打ち、残っているわずかな葉っぱは風でズタズタになり、幼果は傷だらけになりました。そのうえ、今日からまた雨で、10℃以下の最低気温予報です。黒星病にとって良い条件ではないけれど、後は、水はけの事を考えて、人事を尽くし、天命を待つしかありません。

この後、きゅうりが店頭に並ぶようながあれば、「よく頑張ったね！」と誉めてあげて下さいね。

今回は、きゅうりの事しか書けませんでした。何しろ剪定で忙しくて、忙しくて・・・、その上、収穫に時間のかかる豆類の収量が増えて来たので・・・書きたいことはいっぱいあるのですが・・・来月に回したいと思います。



かわいふあ～む

川合 浩平

もう8月だ！

暑い！

溶けそうだし
干からびそう
だし、ムレム
レです！

あ～、なんて年だ！



↑先月、こんな書き出しでした。

今見ると、「ほんと？」って思いますね笑
8月は不思議なくらい寒かった・・・

あ、どうも！

かわいふあ～むのカワイイです！

そして今はこれを書いているのは台風21号前夜・・・

これを読んでいる頃は台風が過ぎ去っていますね。

台風の被害はひどかったのでしょうか？

それともあまり害はなかったのでしょうか？

たぶん畠は結構被害あったと思いますね。

まあ、やれることはないので、朝起きてからです！

深夜畠にいても、やれることはないし、命を危険にさらすだけですからね。笑
自然には勝てません。

されるがままの被害の後、片付けがおそろしいな～

ん？被害？

被害と言えば、スイートコーン！

今年、アライグマとカラスにほぼすべて食べられました。

やつら、食欲スゴいんす…
植えた人にまったくリストケクトを示さず、あたかもそこ自然に生えているものを食すがごとく、食いつくします。

(↓以下ちょっとボヤキ)

けどね、ちょっと考えたらそんなに美味しいもん、自然にあるわけないんだから不思議に思えばいいのに。

だって人間が植えなくなったら、来年から食べれないんだから、そこは気遣い見せてもらってもいいと思うよ。

少しはあげるくらいの心の広さは持ち合わせていますよ、今までさんざんシカにもあげてきたんだし。



た・・・笑

しかし、全部はイカンよ、全部は。

種まいて定植して草取って、これから収穫って時に日に日に無くなっていくあの徒労感・・・

今年は心に大きな傷を残したね。

来年はもっと美味しいトウキビを植えてやるさ。
とてもとても美味しいやつを。

食べたことを後悔してトラウマになるくらいのやつをね。
あ、暗いカンジになってきた

まあ、そんなわけで鹿は今年も電牧をしていない所にはちゃんと来てます。

またもやニンジン食べてますね～
シカもアライグマも畑の真ん中から食べていくんです。

そして、気が付いた時には手遅れなんてことが・・・

端はつまみ食いをしたのが人間にバレるとわかっているんですよね。

たまにしか行かない畑では、道の近くだけを見て畑の中まで入らないからわからないんです。
もはや小別沢の無農薬栽培は、病気だ虫だという話は過去の話になりつつあります。

ケモノとの戦いになってきております！

先日小別沢でシカがワナにかかって解体を手伝ったのですが、なかなか凄惨な現場でしたね。逆さにつるして首を切って血抜きをしながら皮をはいで解体するという・・・

解体を手伝いと言っても解体補助でシカを押さえたりしていたのですが、落とした首がずっとこっちを見てましたね・・・

ジブリのシシガミ様の様に頭が地面から生えて



いる違和感、最初はとても直視出来なかつたですね。

空気銃で殺すところからの一連の流れを体験させてもらいましたが、「命」を頂くとはこういう事なんだよな、と改めて思いました。

今の食は「モノ」に成り下がっているのでこういう体験は必要だし、やっぱり「農」と「食卓」の距離が離れていることは問題ですね。

「お肉」が普通にスーパーに並んでいますが、けどそのウラには肉の数だけその動物達の断末魔の悲しい叫びがあるという事で、その忘れがちな事実をもう一度確認させてもらいました。やはり「食」は「命」、そして感謝しかないので、本当に。

そんな中、山ちゃん（本店山田さん）がニンジン畠のシカ対策でこんな看板を作ってくれました。シカが増えすぎているので共存という選択

肢はかなり厳しい気もしてますが、少しでも来ないでくれればと思います。

さて、効果があるかどうかは次回のお便りで発表しますね！！

そうそう、最近天気ぐずついてますよね～。

この天気で土が乾かず、トラクターを使えない日々が続いています。

このまま冬まで行くのか、せめて晴天の日が3日程連續で欲しい所です。

そんな中、最近履き続けていた長靴にまた穴が開きました。

知ってますか？

靴ってめちゃんこ大事です。

仕事柄歩きっぱなしですが、変な靴を履くと簡



単に身体の調子が悪くなります、本当ですよ。変な長靴は足と腰にダメージを与えますし、暑い時は足から熱を発散する事が出来ないので気を付けてください。

最近履いていた長靴がやっぱり悪かったようで、新しくしたら足に羽が生えませんが、軽くなりました笑

これから寒くなる季節、何かと調子悪くなりますが腰を痛めない様にしたいと思っています。

さて、9月からブーランジェリーコロンさん（超有名なパン屋さん）でナスを使ってもらっています！

期間はナスが出せる時までなので、お急ぎください！今年は寒いので早く終わる気がします！笑

先日の五天山マルシェ、来ていただきて有難うございました！

先月のこの記事を読まれていないなんて書いた前回を読んで、「読んでるよ！」と言ってくれる人もいて・・・

言ってくれる人と言ってくれない人で、読んでくれてる人と読んでくれてない人がわかります！！

次回は9月30日ですよ！

次のイベントは・・・アレですので楽しみに！今年最後ですので、宜しくお願いします！

では来月もお会いしましょう！！

かわいふあ～む

YASAIBACCA 川合 浩平

